

第 36 回 JOMF 特別企画セミナーを東京で開催

2019 年 7 月 16 日(火)、海外邦人医療基金事務局会議室において、特別企画セミナーが開催されました。今回は、学会参加のため帰国中のマニラ日本人会診療所の菊地宏久先生をお迎えして懇話会形式で行いました。

まず、マニラの医療事情について、昨年の海外医療情報交換会での報告からアップデートされた近況報告を菊地先生から伺い、参加者との質疑応答、情報交換を行いました。5 名の参加者は全員産業医療職の方でした。

現地で対応可能な疾病、日本との薬の違い、ワクチンについて、インフルエンザ流行のタイミング、メンタルヘルス問題、心肺蘇生セミナーの開催、日本から海外への出張が多い人の健康管理など多岐にわたって質疑応答・意見交換が行われました。

タイムリーな話題は、今月のニュースレターでも取り上げられている水不足で、菊地先生のマニラ生活でも初めてのことだそうです。台風があまり来ないため、フィリピンでも地域によっては水不足となっており、マニラ周辺も例外ではないそうです。日本人派遣者、そのご家族にはあまり実感がないかもしれませんが、ローカルの方の生活を直撃しているそうです。雨期にはおなじみとなっている注意事項 WILD (W: water-汚染された水などによる食中毒・下痢症、I: Influenza、L: Leptospirosis、D: Dengue fever) の中でも、デング熱やレプトスピラの罹患は少ないそうです。

今月のニュースレターもご参照ください。

■マニラは水不足で困っています

<https://jomf.or.jp/pdf/2019/07/932/201907NLMANILA.pdf>

菊地先生(左から 3 人目)



参加者と講師との距離の近い有意義な懇話会でした。
当日は大雨という悪条件でしたが、お運びくださった参加者の皆様、ありがとうございました。

